

IV 大学における教員養成課程や教育委員会・学校と大学の連携に係る意識調査

<調査の趣旨>

- 平成25年度「山口県教員養成等検討協議会 シンポジウム」の参加者に対して、シンポジウム終了後、教育委員会・学校と大学の連携に関する調査を実施した。
- また、教員養成課程の充実に向けては、各大学が行っている養成課程の現状を把握することが重要であることから、平成26年度の教職課程をとっている大学4年生及び初任者研修受講者を対象とした意識調査を実施した。

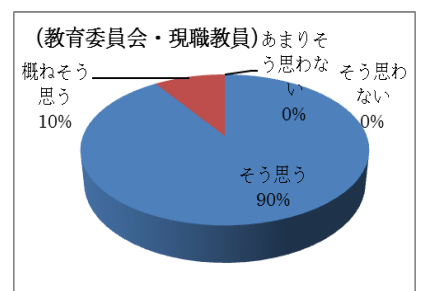
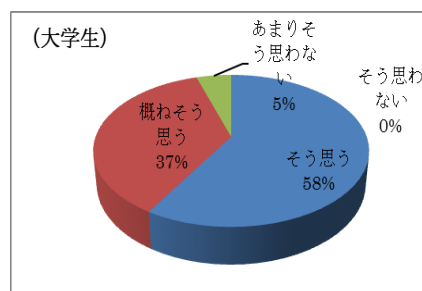
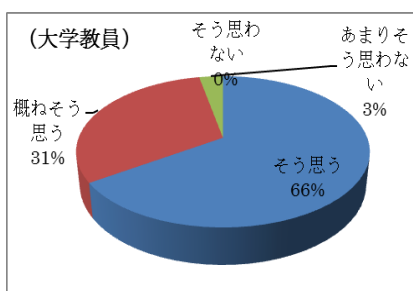
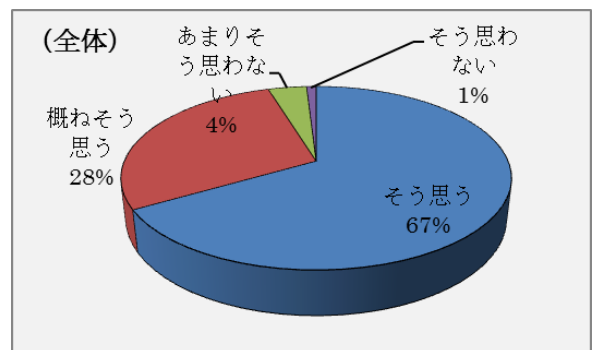
1 教育委員会・学校と大学の連携に関する意識調査（平成25年度実施）

○ 平成25年度「山口県教員養成等検討協議会 シンポジウム」において、大学教職員、学生、教育委員会職員・現職教員を対象として実施した調査では、「大学における教員養成に教育委員会・学校も積極的に関わっていくこと」、「現職教員の育成に大学も積極的に関わっていくこと」、「山口県内に教職大学院を設置すること」について、多くの参加者が必要であると回答している。

- 平成25年度「山口県教員養成等検討協議会 シンポジウム」の参加者に対して、シンポジウム終了後、教育委員会・学校と大学の連携に関する調査を実施した。
- シンポジウム参加者186名（大学教員・職員、大学生・院生、教育委員会職員・現職教員）のうち、109名から回答があった。

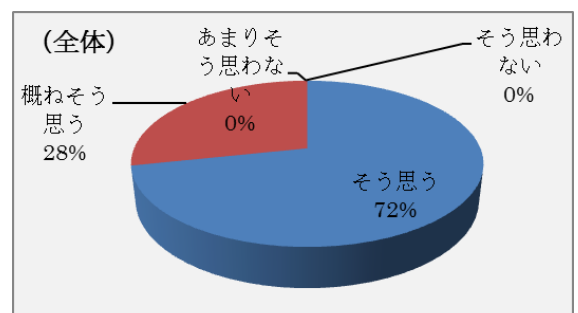
（大学における教員養成に教育委員会・学校も積極的に関わっていくことの必要性）

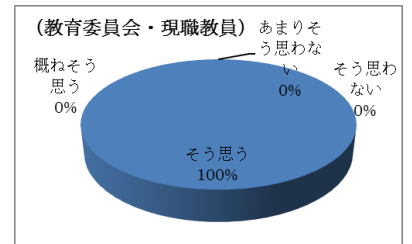
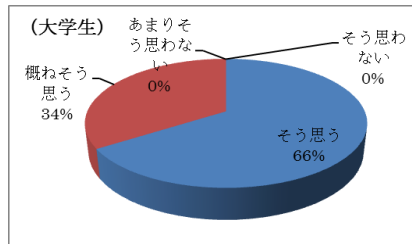
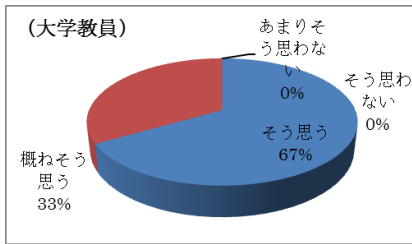
- 「今後、大学における教員養成に教育委員会・学校も積極的に関わっていく必要があると思う。」という問いに対し、「そう思う」、「概ねそう思う」と回答した者の割合は、全体で95%である。



（現職教員の育成に大学も積極的に関わっていくことの必要性）

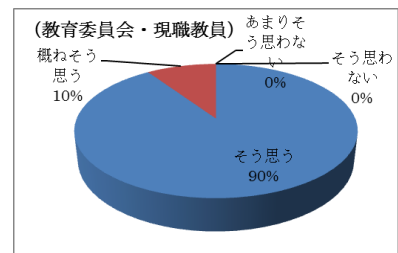
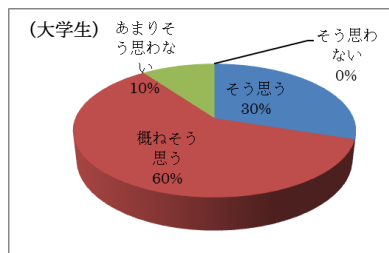
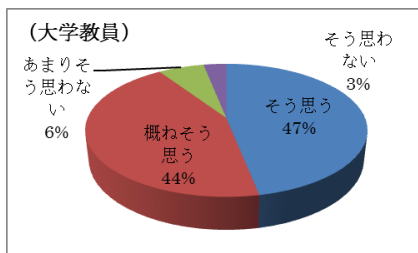
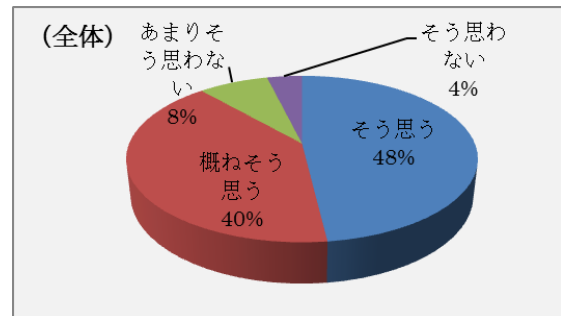
- 「今後、現職教員の育成に大学も積極的に関わっていく必要があると思う。」という問いに対し、回答した全員が「そう思う」、「概ねそう思う」と考えている。





(山口県内に教職大学院を設置することの必要性)

- 「山口県内に教職大学院が必要であると思う。」という問いに対し、「そう思う」、「概ねそう思う」と回答した者の割合は、全体で95%である。



(教育委員会・学校と大学等が連携した教員の養成・採用、育成の取組についての意見、要望 (自由記述))

<主な意見>

(大学教員・大学職員)

- 学卒進学者との関わりやカリキュラムについてもまだまだ期待と課題が大きいと思う。山口県で教職大学院をつくるにあたって、この点についても十分な検討が必要になってくると思うので、大学・教委・各学校と連携しながらよりよい形を築けるようになるとうい。
- コミュニティ・スクール、山口らしさ、興味がある。「真のコミュニティ・スクール」の姿、制度づくり、それに賛同できる教員の育成が必要。
- 大学は自ら学ぶ場である。予備校化することは反対である。現職教員も児童・生徒と同じようにスクールに行かないと学習しないことに問題がある。こちらの改善をせずしてスクール(教職大学院や〇〇塾)を充実しても仕方がない。必要性は感じるが「何でも屋」に成り下がる必要はない。全県に教職大学院という構想に未来を感じない。講義提供及び連携すれば良いだけと考える。教員のエリート教育では底上げにはならない。
- 現在の教員養成大学院(修士)の教科専門の教員をどのように教職大学院に組み入れていくかが問題であると思う。

(大学生・大学院生)

- 山口県に教職大学院があれば、今回のように大学教員だけでなく、現職の先生、教育委員会の方と話し合う機会ができ、より密度の濃い大学生活が行えるのではないかと考える。
- 教員の養成・採用・育成において、教育委員会・大学・学校のつながりと関わりは大切だと思うが、教職大学院はお話を聞く限り、管理職養成・育成であり、マネジメント能力が重視されて

いるようなので教員養成とは別に話を進めるべきだと思う。管理職養成ならば県や市の研修で行う方がよいと思う。

- 実践に即していない学び・還元できない学びはいけないのだろうか。大学は教育委員会の要請をきくというよりは最高学府として教育をリードしてほしい。
- 山口県の教職員の資質能力の向上が図られることを期待します。今が岐路と感じる。

(教育委員会職員)

- 教員・管理職の養成に向けて、様々な連携をいかせるもの場が教職大学院であると理解した。今後、県内に必要なものであるし、教員養成を総合的に効果的に行うことができるものと理解することができた。
- 県内に教職大学院が設置されることで、更なる「教師力向上」につながると考える。県内の設置を強く望む。
- 学校として、教育委員会として、管理職養成を大学院でということであれば、可能な範囲で学費の支援（給付）も考えていくと、さらに、優れた人物に学ぶ機会が与えられると思う。

(現職教員)

- 独自のスタイルでの教職大学院の設置（大学間連携を含めて）を考えていただきたい。
- 臨採教員は自身の資質向上に意欲的。教師塾等の研修機会があると積極的に参加すると思う。

2 大学における教員養成課程のカリキュラム・授業に係る意識調査（平成26年度実施）

- 大学の授業で身につけた資質能力とその程度については、全般的に、大学生に比べ初任者の方の見方が厳しく、児童生徒の状況の理解や、それを基にした判断・実践に係る力の育成を大学時代に求める声が多い。
- 「子どもの実態についての専門的知識・理解」については、「よく身につけた」「ある程度身につけた」と回答しているのは、大学生の83%に対し、初任者は38%にとどまっている。
- 同様に、「児童生徒の状況に応じ、判断を基に実践する力」は63%に対し19%、「児童生徒の状況に応じ、専門的知識を基に対応を判断する力」は64%に対し24%、「指導方法に対する知識・理解」は76%に対し38%と、学校現場での勤務経験を経て見方が厳しくなっている状況が伺える。
- 大学のカリキュラム・授業に望むことについては、「学校体験等、学校現場での実践に係る場の充実」について、24.7%の大学生が大学での授業・カリキュラムに望んでいるが、初任者になると35.9%と、望む割合がさらに増えている。
- この傾向は、「学校が抱えている課題や推進している教育など、学校現場の実態に関する内容の充実」の項目についても伺うことができ、大学生で16%が初任者は22%に増えている。
- この調査項目においても、学校現場での勤務経験を経て、学校現場の実態に関する内容について大学の授業等で学ぶ必要があると、より多くの初任者が感じている傾向が見て取れる。

(調査対象者)

- 教員養成等検討協議会参加大学において、教職課程をとっている4年生
山口大学・・・271人、山口県立大学・・・52人、徳山大学・・・30人、
山口学芸大学・・・51人、宇部フロンティア大学・16人、東亜大学・・・34人、
梅光学院大学・・・26人、至誠館大学・・・4人、山口短期大学・7人
計 491人
- 平成26年度初任者研修受講対象者
小学校147人 中学校81人 高等学校37人 特別支援学校18人
計 283人

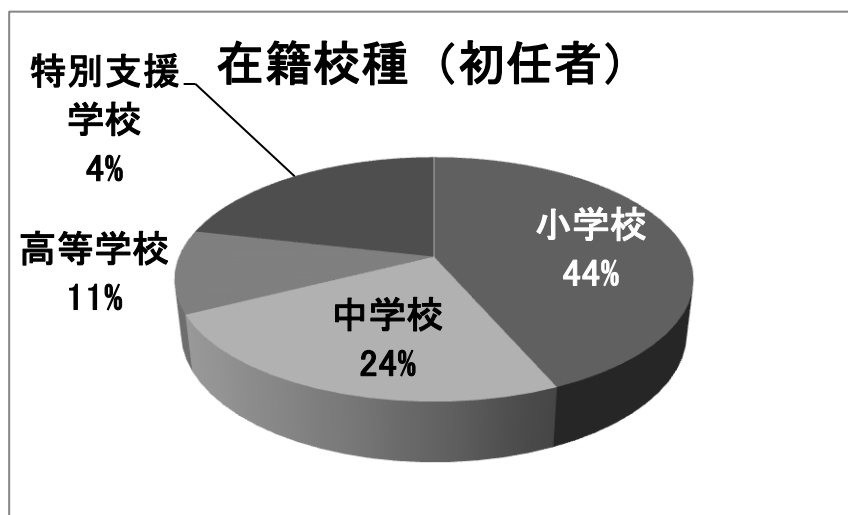
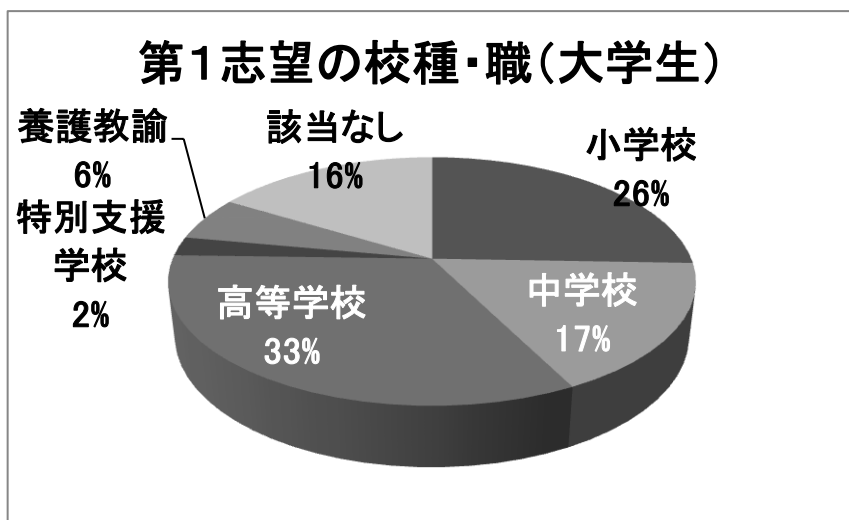
(調査内容)

- 大学における教員養成課程のカリキュラム・授業、及び教員採用試験の充実・改善に向けた意見

(調査期間)

- 平成26年11月7日(金)～11月28日(金)

(第1志願の校種・職)



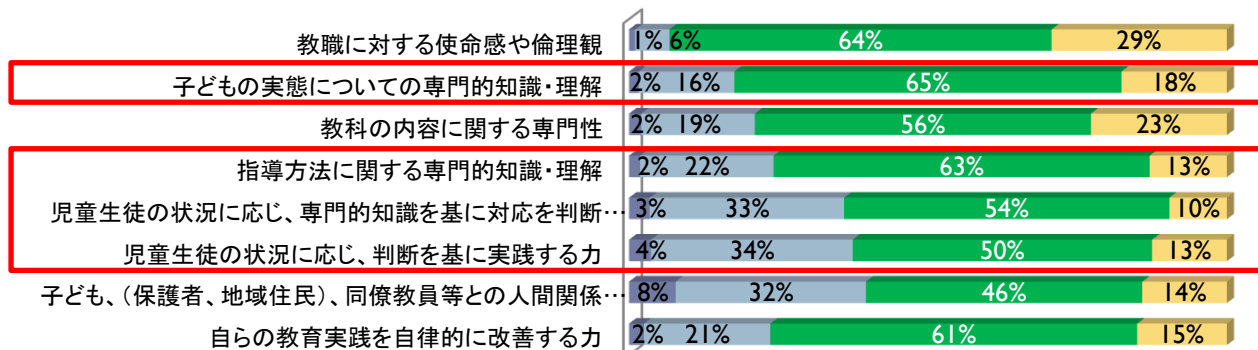
(大学の授業で身につけた資質能力とその程度)

- 全般的に、大学生に比べ初任者の方が見方が厳しく、児童生徒の状況の理解や、それを基にした判断・実践に係る力の育成を大学時代に求める声が多い。
- 上から2つ目の項目「子どもの実態についての専門的知識・理解」については、「よく身につけた」「ある程度身につけた」と回答しているのは、大学生の83%に対し、初任者は38%にとどまっている。
- 同様に、「児童生徒の状況に応じ、判断を基に実践する力」は63%に対し19%、「児童生徒の状況に応じ、専門的知識を基に対応を判断する力」は64%に対し24%、「指導方法に対する知識・理解」は76%に対し38%と、学校現場での勤務経験を経て見方が厳しくなっている状況がうかがえる。

■ あなたは、次の各項目について、大学の授業でどの程度身につけましたか。次の基準をもとに答えてください。

大学の授業で身につけたレベル(大学生)

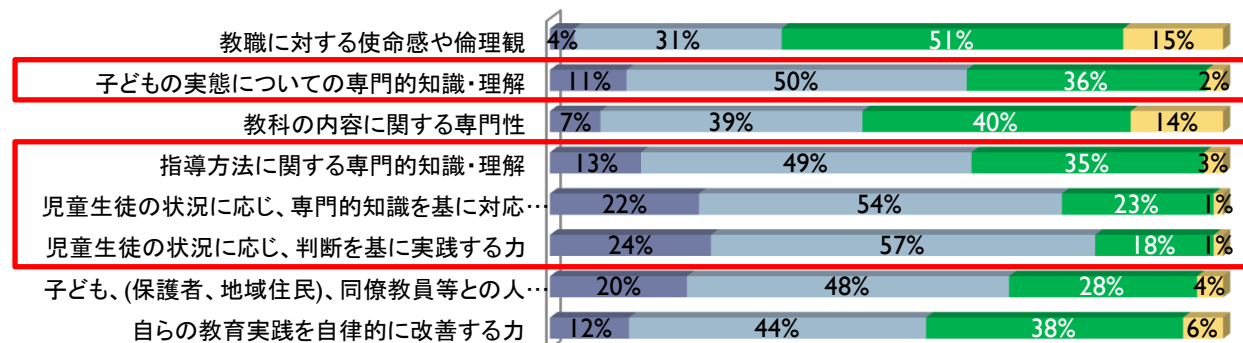
■ ほとんど身につけていない ■ あまり身につけていない ■ ある程度身につけた ■ よく身につけた



■ あなたは、次の各項目について、大学の授業でどの程度身につけましたか。学校現場で求められるレベルを4段階の4と想定して、御自身が該当すると思われるレベルを選んでください。

大学の授業で身につけたレベル(初任者)

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4

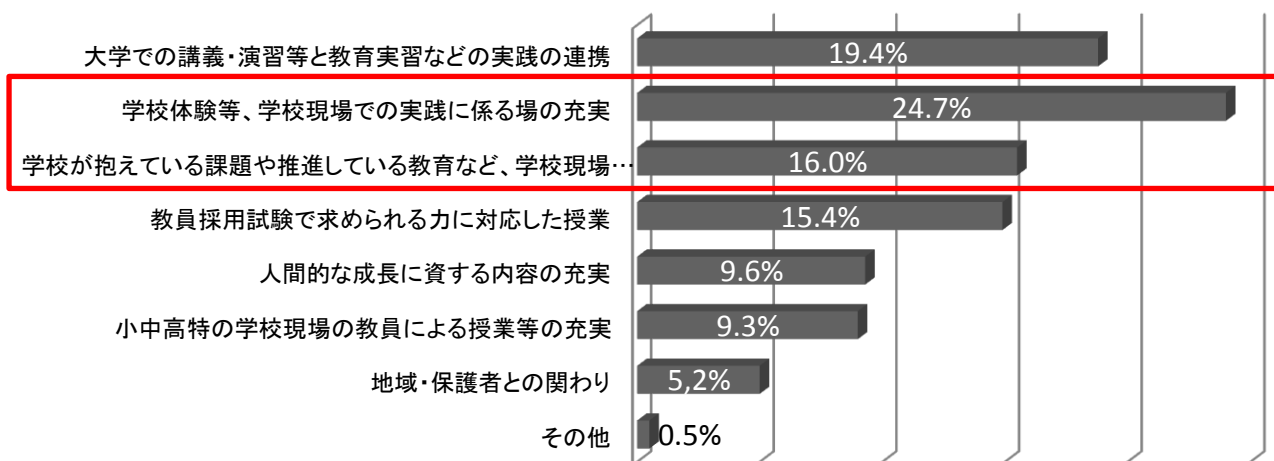


(大学のカリキュラム・授業に望むこと)

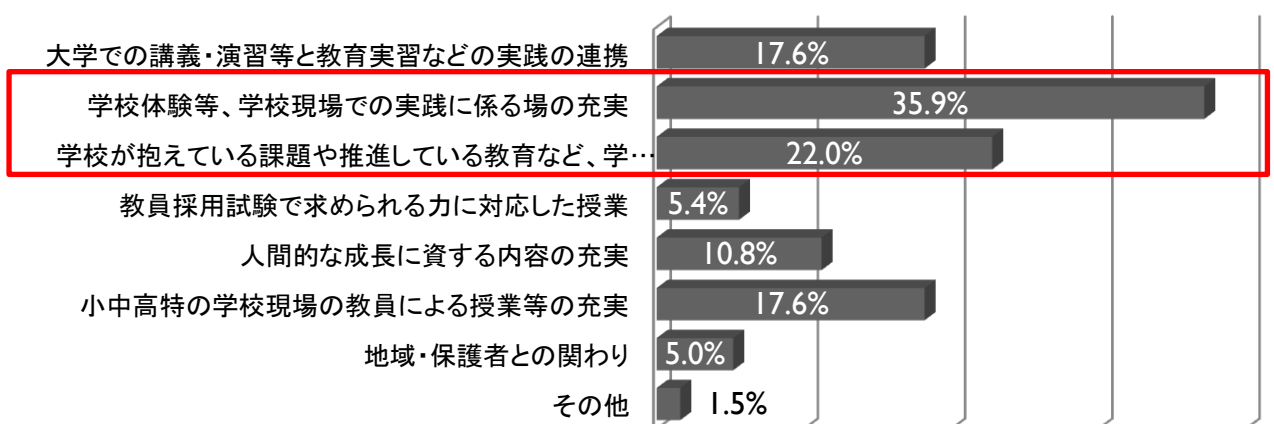
- 「学校体験等、学校現場での実践に係る場の充実」については、24.7%の大学生が大学での授業・カリキュラムに望んでいるが、初任者になると35.9%と、望む割合がさらに増えている。
- この傾向は、「学校が抱えている課題や推進している教育など、学校現場の実態に関する内容の充実」の項目についても伺うことができ、大学生で16%が初任者は22%に増えている。
- この調査項目においても、学校現場での勤務経験を経て、学校現場の実態に関する内容について大学の授業等で学ぶ必要があると、より多くの初任者が感じている傾向が見て取れる。

■ あなたが大学の教員養成課程における今後のカリキュラム・授業に望むことは何ですか。特に該当するものを二つ選んでください。

大学のカリキュラム・授業に望むこと(大学生)



大学のカリキュラム・授業に望むこと(初任者)



(大学における授業や教員養成カリキュラムに望むこと)

■ 大学生の意見 (自由記述)

<主な意見>

- ・実習に行くまでに身につけておくべきものが明確であるとよい。抽象的だとわかりにくい。
- ・教育実習前に、実践的なことや現場で役立つ内容を取り入れてほしい。
- ・教員採用試験の内容や勉強法について講義でもっと触れてほしい。
- ・高等学校だけでなく中学校の免許も同時に取りたい。
- ・大学での教授対策が模試だけなので、教職教養等の講座もカリキュラムに入れてほしい。
- ・指導案の書き方、評価の仕方について詳しく講義してほしい。
- ・教育現場の現状や課題を知る機会をつくってほしい。
- ・教科の内容に関する授業の充実。もっと専門性を身につけたい。
- ・栄養教諭の実習期間が短いので延長してほしい。
- ・板書の仕方や発問の工夫など、いい先生の授業を見たい。
- ・学校の様子をボランティア等でよく知りたい。
- ・道徳や生活の授業の充実
- ・事前指導が少なすぎる。記録の取り方の関する指導が甘い。
- ・実践的授業力を高める講座を実施してほしい。
- ・模擬授業を増やし、より実習に生かす。
- ・教育学部以外の学部で教職をめざす学生の支援をしてほしい。
- ・理論と実践を結びつけやすくすること。
- ・3年生からなど、実習を早め長くしてほしい
- ・学級経営について知識理解を深める場がほしい。
- ・大学で学んだことが生かせていない。振り返りや再履修等の機会をつくるべき。
- ・教育実習で指導案作成をなくす。

■ 初任者の意見 (自由記述)

<小学校の主な意見>

- ・積極的に学校現場に出向き、現任教員と対話する機会をもちたい。
- ・道徳の時間の授業の展開について、より具体的な案や時間をかけた指導があれば現場に出たときにとても助かる。
- ・授業における指導法を具体的に学べるといい。
- ・教科教育法等の授業では、知識を理解するだけではなく、学生が具体的な指導法を実践する場がもっとあると良いと感じる。例えば理科では、単元や指導内容、ねらいをもとに、どのような活動を仕組めば良いのか等を学生自身が考え、実践したあとに指導教員から指導をいただけるなど。
- ・4回生では、これまでに学習したことを基に授業を実践する場を多く持たせることで、現場に出てから授業の様子が少し分かり不安が薄まるのではないかと思う。
- ・各教科教育法等で、もっと模擬授業などを実践的に行い授業力をつけておきたい。
- ・実践的なカリキュラムの充実と同時に、学生が自立した教師になれるように、一生かけても考え続ける価値のあるような「問い」が生まれる授業をしてほしい。
- ・人間関係形成能力の育成、コミュニケーション能力の育成(子どもとも大人とも)、社会人としての最低限の礼儀、マナー等
- ・大学で学ぶ授業内容が教育実習にすぐに生かされるような授業を受けたいと思う。(例えば、指導案の書き方、大学の授業との関連性など)
- ・教育実習のように指導案や指導方法を主に学んだり経験したりする実習以外に、インターンシップのように学校での担任の事務や雑務なども知ったり体験したりする機会があった方が良いと思う。
- ・実際に小学校で取り扱っている教科書をもとに、授業を構成する力を養うための授業が多くあればよい。
- ・基本的に、教育実習以外は教員及び子どもとの関わりがない。
- ・教育実習は、授業についてじっくり考えることができるが保護者とのやりとりや、授業以外の教員の仕事などについては触れることができない。
- ・授業のつくり方についてもっと学ぶべきだと思う。
- ・実際の現場の授業を見る機会を増やし、経験を積む時間が欲しい。
- ・授業ボランティアなど、良い授業や指導に多く触れる機会を増やしたらよい。

■ 初任者の意見（自由記述）

＜小学校の主な意見＞

- ・各教科における指導技術について具体的に知ることができたらよかった。
- ・大学のときに学習支援ボランティアとして毎週小学校に行かせていただいた経験が私の中でとても大きなものとなっている。
- ・実践的授業力を育成する養成カリキュラムの充実を進めていただくと、現場に出たときの悩みも少なくなるかと思う。
- ・大学での理論と実習などの体験が繰り返されるようなカリキュラムだと良い。
- ・教育原理などを学ぶことも重要であると思っているが、各教科の内容や指導方法について学ぶことができたらいいと思う。
- ・教材研究の仕方について学ぶべきだと思う。
- ・実践が大事だと思う。ボランティアで小学校に読み聞かせに行く、休み時間一緒に遊ぶ、授業参観・補助で入らせてもらうなど、実際の問題点を見ておき心構えを持つことも必要なのではないだろうか。
- ・学習指導や生徒指導のあり方はもちろんであるが、教室掲示、給食・掃除指導の仕方、朝の会・帰りの会のプログラム内容や、ルール・システムづくりの例など、現場にたつてすぐに実践し、役に立つことを学びたかった。
- ・実際に担任になってから学ぶことや気づくことが多数あった。できるだけ在学中に学級経営や児童管理に関わる機会があれば良いと思う。
- ・理論と実践のバランスのとれたカリキュラム
- ・副免許を取得するための授業カリキュラムを再編成してほしい。3、4年次での講義がほとんどだったため、1、2年次でもバランスよく講義が受講できるようにしてほしい。
- ・採用試験に向けての専門的な知識と教育現場に求められる教員としての基礎力
- ・学級経営や特別支援教育についての講義があるとよいと思う。
- ・講義中心の授業ではなく、より多く経験させる（たくさん指導案を書かせる、板書計画を書かせる）ことが大事だと思う。
- ・現場にでると学習指導要領がいかに大事なものであるかを感じている。学生さんが学習指導要領についてしっかりと学ぶようなカリキュラムなどがあればよいかなと思う。
- ・小・中・高学年に応じた指導や支援の具体的な演習。
- ・現在行われている教師力養成体験実習のように実際の教育現場に入る機会があれば良いと思う。
- ・現場に出てみて、授業力・生徒指導力の未熟さを痛感している。実践力が身につくような実践的なカリキュラムを望む。
- ・より体験的な教育実習。複数校での教育実習や体験。
- ・知識重視の授業が多いように思うため、実際にどのように活用すればよいのか、何を身につけることができるのかや実践例などを知り、学生が授業して確かめる機会をより設けて欲しい。
- ・授業の中で現場の先生にお話を聞く機会があれば、実際に現場に立った際に生かすことができるのではないかと思う。
- ・大学の講義内容と実際の学校現場での職務との関連を重視したカリキュラム
- ・自分から積極的に学ぶためのコミュニケーション能力を育成すること。
- ・授業参観を行う視点を与える。
- ・自分から積極的に学ぶためのコミュニケーション能力を育成すること。
- ・学級経営法に関する授業・講義があれば、自信を持って現場に出ることができるのではないかと思う。また、1つの授業に対して試行錯誤をして実習することがほとんどだと思うが、「1日担任」のような、学級経営法を実践する場も設けられるとよい。
- ・講義で学んだことを、実践で生かす力をもっと身につけておきたいと思う。
- ・教職に直接関係あることだけではなく、幅広い経験と教養を身につけるための弾力的なプログラム。
- ・教育実習以外での現場にいる時間の増加
- ・私の場合、実習で教科を指導する機会が全部で5回しかなかった。もっと授業を実践して、教材研究のやり方などを学びたかった。
- ・授業ボランティアなど、良い授業や指導に多く触れる機会を増やしたらよい。
- ・各教科における指導技術について具体的に知ることができたらよかった。
- ・大学のときに学習支援ボランティアとして毎週小学校に行かせていただいた経験が私の中でとても大きなものとなっている。

■ 初任者の意見（自由記述）

＜中学校の主な意見＞

- ・学生にとって、学校現場とは未知の分野であり、未知の分野に対しての準備はどれだけ尽くしても現場の実践には及ばないものだと思う。
- ・学校現場でのOJTなど、実践を通して力量を高めることを期待する。
- ・大学を卒業後、すぐに教員になった者は「授業だけをすればよい」と思っていることがある。校務分掌などに関する知識も大学で教えるべきである。
- ・指導案の作成方法や、教科指導方法はある程度できるようになってから、実習に臨めるようにする。
- ・教育実習をインターンとして半年～1年間行う。
- ・大学の授業で、各学年に応じた成長過程を考えた演習を行ってほしい。
- ・学校現場の現状・課題と向き合い、教員という仕事の現実を知ることには力を入れるとよいかと。教員になってからのズレを緩和するよう必要があるように感じられる。
- ・人間関係を円滑に保つ力や困ったときに誰かに相談できることは教員に限らず必要ですが、機能していないように思います。
- ・児童、生徒理解に関わる授業内容（生徒指導や教育相談）を充実させることを望む。
- ・活動の意義を十分に理解した上で取り組ませ、実践的な内容も確認してほしい。
- ・教育学部だからといって専門性よりも体験を重視するのはよくないと思う。
- ・中学校で起こりうる色々な問題に対する対応の仕方をもっと学んでおきたかった。このようなことを学べる実践的な授業があれば良い勉強になると思う。
- ・実習は一生懸命するものなので、日常の大学の授業で、いかに学生に勉強させるかが大事だと思う。教科教育法では、教科書や学習指導要領を読み解く授業をしてほしい(現場でゆっくり考えることができないので)。
- ・教員免許取得可能な大学における教員養成講座の授業内容や授業数の充実。また、教員採用試験の対策・全面的なバックアップ。
- ・道徳授業について、取組をさらに強化したら良いと思う。
- ・教育学部ではない学部の、教員養成カリキュラムの充実
- ・実際に指導する機会をもっと設けてほしい。また、部活指導においても、もっと専門的なことを細かく学んでおきたい。
- ・公立校での実習の充実、指導案の作成に関わる講義の充実
- ・短期（2週間、3週間）の教育実習では現場に慣れ、何かをつかむ前に終了してしまったように思う。
- ・教育学部以外の学部で教職課程をとる学生に対する学校現場での体験学習の充実。教育学部は観察実習が多く組み込まれていたが、他学部にはなかった。(もしかすると履修できたのかも知れないが、情報が不足していた。)
- ・教科指導における専門性の充実、教材力の向上のための指導。
- ・どの学部、学科に行くにしても、教員免許をとる以上はその専門教科の基礎となる知識や指導方法は教育学部の授業を受けてつけるべきだと思う。私は大学時代は経済学部で高校の公民の免許をとり、その後、教育学部の大学院に進んで中学校社会の免許をとった。大学院に入って指導法方法などについてより深く学んだが、大学時代に学んだ指導方法は表面的であり、そのまま大学院に進まず教壇に立っていたらまともに授業できなかつたと思う。
- ・生徒指導について、事例をもとに対応法を検討する機会を増やしてほしい。
- ・教育現場の生の声を聞ける機会を増やして欲しいと思います。
- ・大学時、生徒の実態を知る機会が少ないように感じた。小中高特と連携し、定期的に参観できる機会を設けた方が良いと思う。
- ・教科専門で学んだことは実際の授業の中で生かせていない。専門的知識として「深める」ことには意義を感じるが、深めている内容については中学校教育では触れない範囲であったため、実際の現場で必要な知識を深めていきたい。
- ・事前・事後指導の充実に加え、教育実習と教育実習をつなぐ中間指導のようなものの実施や現場教員との共同授業研究を行い、実践的な能力を高めていくようにしたらよいと思う。
- ・授業をする機会をもっと増やすべきである。(実習や模擬授業など)
- ・学校教育の現状を知り、教員としての心構えや生徒への関わり方等の学習を今以上に充実させると、実際に教員として働くときによいのではないかと考える。
- ・部活動の指導に関する学びの充実。有事の際の教員同士の連携に関する学びの充実。
- ・教員免許を取得して大学卒業後、教員以外の職業に就き、その経験から教師になろうと考えたので、何ともいえない。

■ 初任者の意見（自由記述）

<高等学校の主な意見>

- ・指導案の作成に時間を取らせすぎている。付属学校では特に多くの指導案を書かせているが、実際に教員になった際に一つの授業の指導案を何度も作り直させることはない。それよりも生徒とかかわるなかで得られることに焦点を置いてほしい。以前勤務していた学校に委託の教育実習に来た大学生は、生徒との距離の取り方で悩んでいた。付属学校では生徒が教育実習生に対して慣れすぎてしまっているのでは、その経験が得られなかったという。多くの生徒と接する機会を是非とも増やしてあげてほしい。
- ・インターンシップ制度等、教育実習以外で実際の生徒に触れる機会を設けること。わたし自身、実際に現場に出たときに、生徒をどのように理解し、どう接していいのかということに大きな戸惑いを覚えたので、教育実習のような期間限定のものだけでなく、継続的・長期的に一定の生徒と接する経験があったほうがよいと思ったため。
- ・特に教育学部では教育方法の指導に力点がおかれがちなので、専門に関する授業をもっと充実させた方がよい（特に高等学校の教員を志望する場合）。
- ・教員になるべき心構えや指導法など
- ・1年次からの実践的な授業
- ・教育学部以外の学部における模擬授業の充実
- ・授業づくりについての講義があると実践力につながり、嬉しい。
- ・教育実習期間をのばす
- ・学校現場での仕事内容を教えてほしい。授業以外の仕事内容が不明確で、現場に出て何をしたらよいかわからないことが多い。
- ・大学の教員が高校に来て授業や部活等を見ることが大事だと思う。
- ・教員採用試験の受験対策だけになっている一部の教育大、教育学部は改善が必要。
- ・教職現場の厳しさや生徒の問題の実際事例などを学習したほうがよい。
- ・教育現場で求められる教科指導、生活指導、生徒指導、進路指導などの充実
- ・私は文学部で教職課程を別にとったが、指導案の書き方や指導の方法など具体的に教わる時間がなかった。もう少し指導案を書いてその実践などができる機会（自分たちで設定したりを含め）があればよかったと、今は思う。

■ 初任者の意見（自由記述）

<特別支援学校の主な意見>

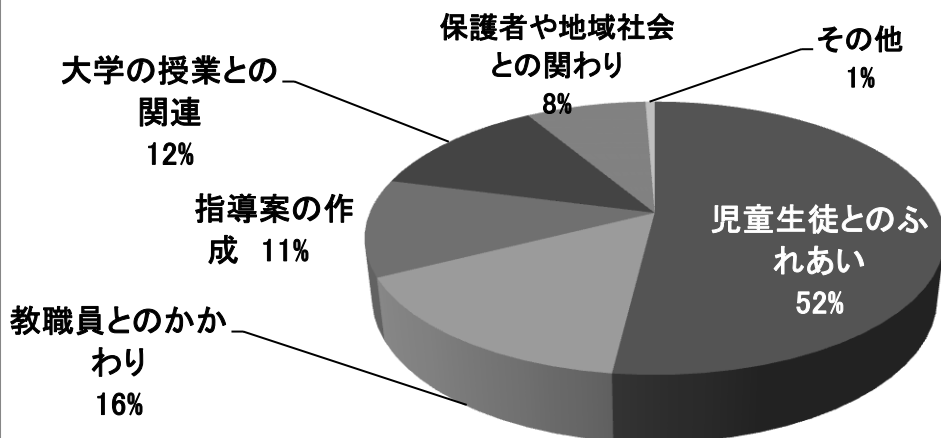
- ・私の学んだ大学では、教員養成に特化した課程ではなかったので、かなりの単位数を取得する必要があった。しかし、教員になってからは、幅広く学んだことが、後々生きてくることを実感している。教員養成カリキュラムに特化している場合に、知識や技能が学校に関するものに偏重しすぎない方が、地域や保護者との人間関係成立には役立つこともあるかもしれない。体験学習も、教育・福祉の枠にとられないものを導入できると効果的だと考える。
- ・大学生だった頃、価値観や思考の転換をもたらすきっかけを多く与えてくれたのは、同じ年頃の大学生だった。そのため先生対学生よりも、学生対学生で教育に関する討論ができる場づくりを望む。SSTなど具体的な学校生活の場面を想定した討論が面白かったことを覚えている。
- ・小学校教員の養成課程においては、もっと教科教育に関する講義や演習などがあれば良かったと思う。1単位15回のみでの授業では学び足りないと思う。
- ・講義などの充実も重要だと思うが、体験的な活動を重視した講座（教育実習とは異なった時期に行う出前授業など）も開講していただけると指導力の向上に役立つと思う。

(教育実習等で充実を図るべき項目)

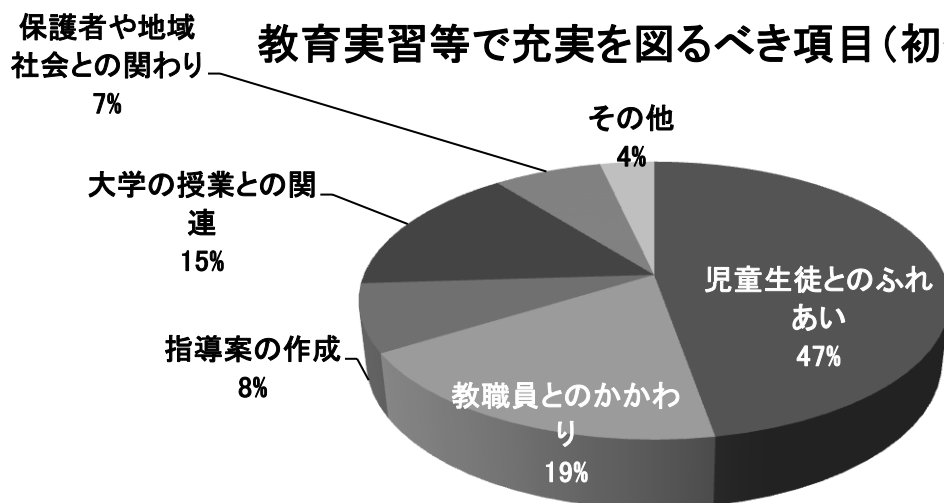
○ 全般的な傾向は、大学生も初任者も同じで、「児童生徒とのふれあい」と回答した者が最も多く全体の5割程度を占め、次いで「教職員との関わり」、「指導案の作成」となっている。

■ あなたが、教育実習について充実を図るべきだと思う項目を一つ選んでください。

教育実習等で充実を図るべき項目(大学生)



教育実習等で充実を図るべき項目(初任者)

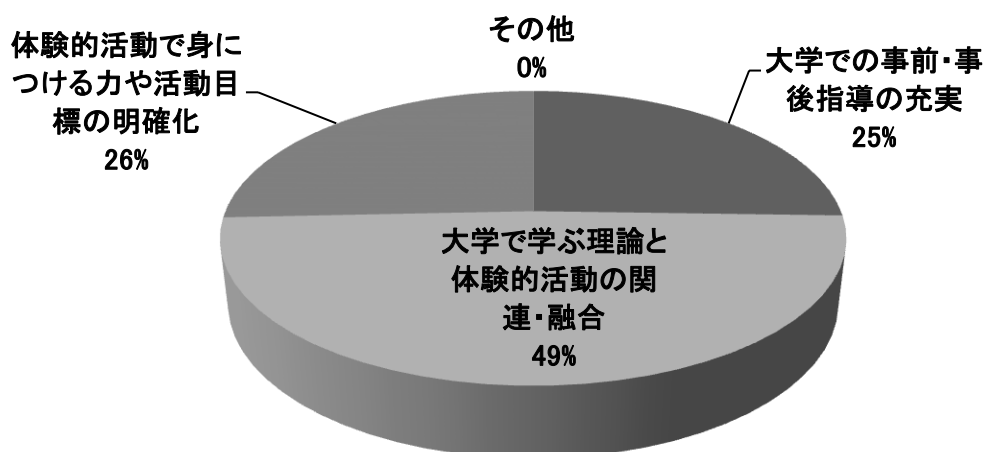


(教育実習等を効果的なものにするために重視すべき点)

- 大学生、初任者とも、「大学で学ぶ理論と体験的活動の関連・融合」と回答したものが最も多く、それぞれ49%、43%となっているが、「体験的活動で身につける力や活動目標の明確化」と答えたものは、大学生では26%なのに対し、初任者では40%と、多くなっている。
- このことから、大学での学びと学校での実践を結びつけたいと考える者は学生・初任者を問わず多いが、ただ単に体験的活動を行うのではなく、そこでどのような力を身につける必要があるのかを明確にしたいと感じていることがうかがえる

■ 教育実習等の体験的活動をより効果的なものにするためには、何を重視した方が良いと思いますか。当てはまるものを一つ選んでください。

教育実習等を効果的なものにするために重視すべき点(大学生)



教育実習等を効果的なものにするために重視すべき点(初任者)

